

農林水産委員会 県内所管事務調査の概要

【平成29年12月7日（木）】

◆調査箇所：農林水産研究指導センター農業研究部

<概要>

イチゴの本県オリジナル新品種「ベリーツ」は、果実の糖度・硬度に優れ、厳寒期でも果皮が濃い赤色という特徴がある。

ベリーツは、農林水産研究指導センター及び県下6箇所における試験研究、現地適応性試験など8年がかりで開発・産地適応化が進められ、デビュー年の今年は、県内及び京都市場に出荷が予定されている。12月6日の初競りでは高値で取引され、今後のブランドイチゴの産地化に対する生産者や市場関係者の期待は大きい。

当日は、育種の流れ、適応性試験の経過や品質向上対策、ハウスにおける栽培管理状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ベリーツの特色、育種における試験研究の経過について
- ・今後の産地化計画、競争力強化の取組について
- ・大分県産であることのアピール、イメージづくりについて

◆調査箇所：大分県農業協同組合南部事業部甘藷選果・貯蔵施設（臼杵市野津町前河内）

<概要>

販売10周年を迎えた「甘太くん」は、昨年、販売額を当初の10倍以上の約5.5億円に伸ばしている。

甘太くんの食味（糖度）等は、農林水産研究指導センターにおける統一基準（貯蔵等の試験結果に基づくもの）で管理されており、県内では、ローソンの焼き芋を始め、出荷先の関西や福岡市場でも人気商品となっている。

県では、共同貯蔵施設や選果ラインの整備など産地化への支援を行っており、当日は、出荷が始まった甘太くんの貯蔵管理状況や選果工程、地元臼杵市を始め7事業所に委託しているイモのつる切りなど出荷調整作業等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・選果場における一連の工程、人員配置について
- ・今後の生産拡大の取組、課題について
- ・後継者の育成について